

はまぼうふう vol.32 2009.10.2.

石狩浜海浜植物保護センター通信

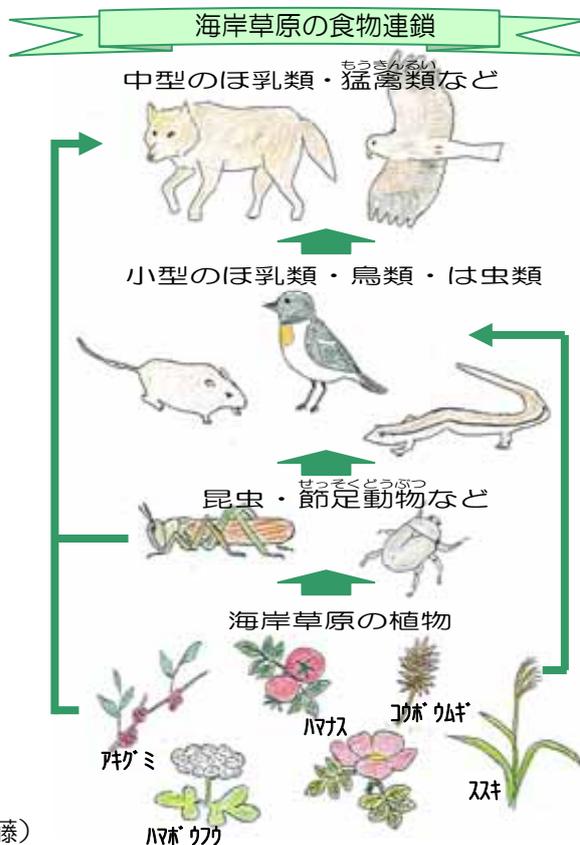
HP 上ではカラーでご覧になれます

見えない鎖を想像しよう

例年秋になると、シカの足跡が石狩浜の砂丘の砂地や河口の先端部で観察されています。海水をなめにやって来ていると言われています。海岸線に沿って続く植生の帯は、大型野生動物にとって移動のための回廊の役割を果たしているようです。とすれば、もっと小型の動物にとっても都合の良い移動ルートとなっていることでしょう。

先日、ボランティアさんが河口先端の砂地で小型のイタチの仲間の足跡を撮影してきました。ネズミ類を捕食するイタチの仲間にとって、ネズミがたくさん生息している石狩浜は、餌には事欠かないかもしれません。しかし、ライバルはたくさんいます。キツネ、ワシやハヤブサの仲間など・・・たくさんのネズミを養っているのは、ハマナスに代表される草原の植物の種子や実、それを食べる昆虫たちです。

食物連鎖の鎖の多さは、自然の豊かさの象徴です。これから何十年先も、鎖が切れることなく絡み合っている健全な海浜環境を維持していきたいですね。(内藤)



砂丘の形はどう変わる？

ここ数年、はまなすの丘の海岸部では、波による砂丘侵食が進んでいます。砂浜に沿って砂丘の断面が続き、砂丘を覆う海浜植物の根がむき出しになっています。6mほどあった砂丘の最高部はすでに侵食により無くなり、かつては砂丘の内陸側にあったハマナスやハマボウフウの群落が砂丘の最前線になっている箇所もあります。また、砂丘の高みがぼっかり窓が開いたように削られた箇所もあり、波が砂丘の内側まで入ってきた様子が伺えます。



はまなすの丘海岸部の侵食状況

このまま侵食が続くと、砂丘はどのような形になっていくのでしょうか。砂丘侵食は、北西の季節風が強くなる冬に激しくなります。センターでは、今秋、砂丘の数箇所に杭を設置し、冬季の侵食状況を調査する予定です。

.....お知らせ.....

企画展～石狩浜の一年～

毎月第1、3、5水曜日に石狩浜の自然情報を観察記録撮影を続けている定期観察の会が、春から写した写真をまとめて展示します。花をはじめ石狩浜の自然の季節の移ろいをご覧になれます。

期間：10月1日～11月3日

場所：海浜植物保護センター（火曜休館）

時間：9:00～17:00

♪どなたでも、お気軽におこしください

今回は、ふるさと自然塾と定期観察の会で活発に活動している種田昭夫さんと、はまなすの丘を毎週のように歩いて調査を重ねている、ふるさと自然塾の寒河江洋一郎さんからのレポートです。

十線浜の植生

6月末から7月にかけて3回ほど、住所表示でいうと銭函5丁目というあたりでしょうか、通称は十線浜というようですが、こちらへ観察に行ってきました。



新川河口から石狩浜周辺の地名

石狩町史に載っているアイヌ語地名という地図を見ると、こちらの浜は新川河口まで3キロほど続いていて、新川河口付近を「オタネ浜（オタナイ、ヲタルナイ）」、十線辺りを「フンベコイ（分部越）」、東ふ頭の根元辺りを「鯨塚」、石狩斎場辺りの海側を「西浜」と言うようです。フンベというのはアイヌ語でクジラを指す言葉で、ちなみにシャチのことを「カムイフンベ（神のクジラ）」といて他の魚を大量に連れてくるということで、アイヌの人々がおそれ敬い、感謝したそうです。



カシワ林の間の道を抜けて小高い砂丘の上から海を臨む

石狩湾新港樽川埠頭西側の工業団地から海方向へ、カシワ林の間を通る道を200mほど進むと、小高い砂丘の上に出ます。そこからは正面に、岸壁を作ろうとした跡のような四角いコンクリートの構築物が数百メートル先まで出来ていて、その内側に、淡水の大きい（100×200mくらいでしょうか）四角い池が広がっています。おそらく水深は1m以上はありそうです。その手前に、海岸に並行して車が通って踏み固められたような道筋があり、両側に水たまり状の湿地が点在します。水深もごく浅く、せいぜい50cmほどの水溜りが何か所もあり、水面の面積も、ゴルフ場のグリーンほどの広さからフェアウェイ面ほどの大きさくらいのものであります。



水生植物が茂る水たまり状の湿地



ミクリ

眼につく植物は、水生植物では、ガマ、ウキクサ、フトイ、サジオモダカ、ミクリ、ヒルムシロ、キツネノボタンなど。海浜性の植物では、コウボウシバ、コウボウムギ、ハマニンニク、ウンラン、エソカワラナデシコ、ハマヒルガオ、ハマナス、ハマエンドウ、ハマハタザオ。他には内陸側に、トクサ、シナガワハギ、シロバナシナガワハギ、クサフジ、キンギンボク。カシワ林の下草はクマイザサがびっしり茂っています。ごく少ない株数ですが、ハマボウフウもありました。おそらく何の規制もないので山菜として採られてしまったものと思われます。

石狩浜と違うのは、イソスミレが全然ありませんでした。よく探せばあるのかもしれませんが観た限りでは見つかりませんでした。ほんの半日ほど3回の調査ですので、まだまだ分からない事が多いのは当然ですが、時期を変えてみるともっと興味深いものがあると思います。鳥や昆虫など、いろいろな方が観察に入っているとされますので、そんな結果もまとまると面白いのではないのでしょうか。

私は北方菌類フォーラムの会員でもありますので、菌類についての観察も出来ればと考えています。ちなみに今回見つかったキノコは、スナジホウライタケ、ハタケキノコです。聞くとところによると冬場にはオジロワシ、春から夏にはショウドウツバメのコロニーなども見られるようです。カシワ林のポリウムも石狩浜と違って、幅200m程ありますので、工業地帯との隔壁となってよい自然環境を残しているのかもしれませんが、海水浴場でもありませんし、なかなか簡単には行けるようなところでもないので行き難いところですが、だからこそその面白さがあると思います。チャンスがあれば、ぜひご覧になっては、と思います。

(寄稿 ふるさと自然塾 種田昭夫)

2つの石狩灯台

写真には2つの石狩灯台が写っている。もちろん最近の写真にちょっと細工したわけだが、左が現在の灯台、右が幽霊（昔の灯台）である。今回は、なかば忘却の彼方の低い灯台の話をする。

つまり、現在の石狩灯台は平成11年に海側へ14m移設されて現在位置にあるのだ。それまでは現在の灯台と堤防の間の低地にあったようだ。その低い灯台を撮った写真が、「はまなすの丘公園」オープンの翌年、平成5年11月号の「広報いしかり」の表紙を飾っている。それを最初に見た時、ニセアカシアが邪魔しているにしても奇妙だなと思ったものだ。そのうち灯台移設の記事を見つけて納得した。それで、同じ位置から撮った写真に低い灯台を加えて「2つの石狩灯台」とした。

それどころか、灯台倒伏の記事も見つけて仰天した。昭和52年の事件である。低い位置にあったから春の大水で基礎部分を^{えぐ}抉られ倒れたそう。この時は2週間ほどで修復されている。それでは本町地区が冠水した昭和56年の大洪水ではどうだったのだろうか。当時の洪水実績図によると、灯台の手前まで冠水している。平成元年の「石狩川河口地域植生調査」で用いられた地形図には堤防が記されているが、確かに灯台の位置は現在よりも堤防に近い。

ところで、現在の灯台周辺の砂丘は標高5mほどで起伏に富んでいるが、明治25年、最初に建てられた頃の灯台は、ほとんど平坦な^{さし}砂嘴にデンと鎮座していたと想像できないだろうか。

(寄稿 ふるさと自然塾 寒河江洋一郎)

※「データで見る海の話」はお休みします。



最近の活動のようす(学習)

花川北陽幼稚園年長児

6・9月、はまなすの丘を歩いて海浜植物を観察したり、特徴など話を聞き、季節によって変化した海辺自然を体感しました。



6月にはキツネの掘った穴も観察できました！

花川小学校4年生

6月には、海浜植物の観察や砂丘にハマボウフウの種子をまく活動、9月には、車の乗り入れによって

植生破壊や砂丘崩壊が進む場所を見学し、人と自然の付き合い方について考えました。

石狩中学校2年生

5・7・9月に石狩川河口を歩き、海浜植物の季節変化を観察スケッチするとともに、漂着物からゴミの問



題について考えたり、海岸草原の生態系について理解を深めました。

7月11日 石狩浜自然観察会

石狩浜で活動している市民ボランティアグループ“ふるさと自然塾”を講師に招き「花砂丘の風景を楽しもう」というテーマで開催しました。



はまなすの丘はこのテーマのとおり、ハマボウフウの白、エゾカワラマツバの黄色、エゾカワラナデシコのピンクなど、様々な花で彩られていました。

8月6日 夏休みこども自然教室

～海浜植物の図鑑をつくらう～

海から内陸に向かって海浜植物の特徴を観察しながら、種類や種数が変化するようすを調べました。自分で撮った写真や記録した特徴を模造紙にまとめて、石狩浜の海浜植物ポスター図鑑をつくりました。



7月25日～8月9日 夏休みミニ自然教室

夏休み中の週末、誰でもその場で参加できるミニ自然教室を開催しました。自然案内人が見本園の海浜植物を紹介するガイドツアーや、海浜植物を使ったしおりやはがきづくり、貝殻や実を石に貼り付けてペーパーウェイト、コルクの板に貼り付けて壁かざりづくりなどのクラフト体験が行われ、こどもだけでなく、大人も夢中になれると好評でした。



9月5日 石狩浜野鳥観察会

(石狩川開発建設部 川の博物館 と共催)

ススキが風になびき、気持ちのいい初秋の風が吹いていました。海側から砂嘴を回り、波打ち際ではトウネン、チュウシャクシギ、ホウロクシギなどのシギ類、砂嘴の先端ではカモメの仲間、川側ではウミウなどを観察しました。その後、川の博物館で茨戸川の自然を学びました。



7月30日 夏休みこども自然教室

～ハマナスで草木染に挑戦～

石狩市の花「ハマナス」を使って草木染に挑戦しました。花びら、葉、根の3種類の材料を集め、染色液を作りました。輪ゴムや割り箸、小石や貝がらで絞り模様をつけたり、濃く染めたい部分に豆乳で柄を書いたりしました。



また、クイズでハマナスなど海浜植物の特徴について楽しく学びました。

また、クイズでハマナスなど海浜植物の特徴について楽しく学びました。

9月19日・26日 石狩浜こども自然教室

保護センター周辺の砂浜・カシワ林・草原を歩き、ネイチャーゲームで生き物のつながりや役割



ハマナスの実でジャムづくり、集めてきた植物や貝がらなどを使ってしおり・壁かざりづくりなどクラフトあそびをして、感想を発表しあいました。

について考えました。センターの中では、



問合せ

4/29～11/3: 石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1 tel.0133(60)6107

申込み

11/4～4/28: 石狩市役所市民生活部内 〒061-329 石狩市花川北 6条 1丁目 30-2 tel.0133(72)3240

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>